

平成30年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	広汎な観測に対する因果性の導入とその最適統計推測論の革新
研究代表者	谷口 正信 (早稲田大学・理工学術院・教授) ※平成30年7月末現在
研究期間	平成30年度～平成34年度
コメント	<p>本研究は、統計データだけではなく広範囲な分野で得られる観測データから、データ科学において今まで捉えられていなかった潜在要因の統一的な指標を構築し、新しい潜在要因抽出法を提案することを目的としている。本研究で構築しようとしている理論や開発手法は、新規性や独創性が高く、革新的である。指標の定め方など難しい課題を含んでいるが、応募者のこれまでの優れた研究活動で得られた知見を基に、有用な研究成果が得られる可能性が高い。また、広範囲な観測データを対象としていることから、ビッグデータの時代において、広い学術的分野への波及効果も期待できる。</p>